

社会科学習指導案（歴史的分野）

日 時 平成22年 5 月21日（金） 第 1 校時

対 象 1 年 3 組(男子20名 女子20名 計40名)

指導者 教 諭 毛 利 真 吾

1 単 元 「世界から見る日本の成り立ち」

2 単元の考察

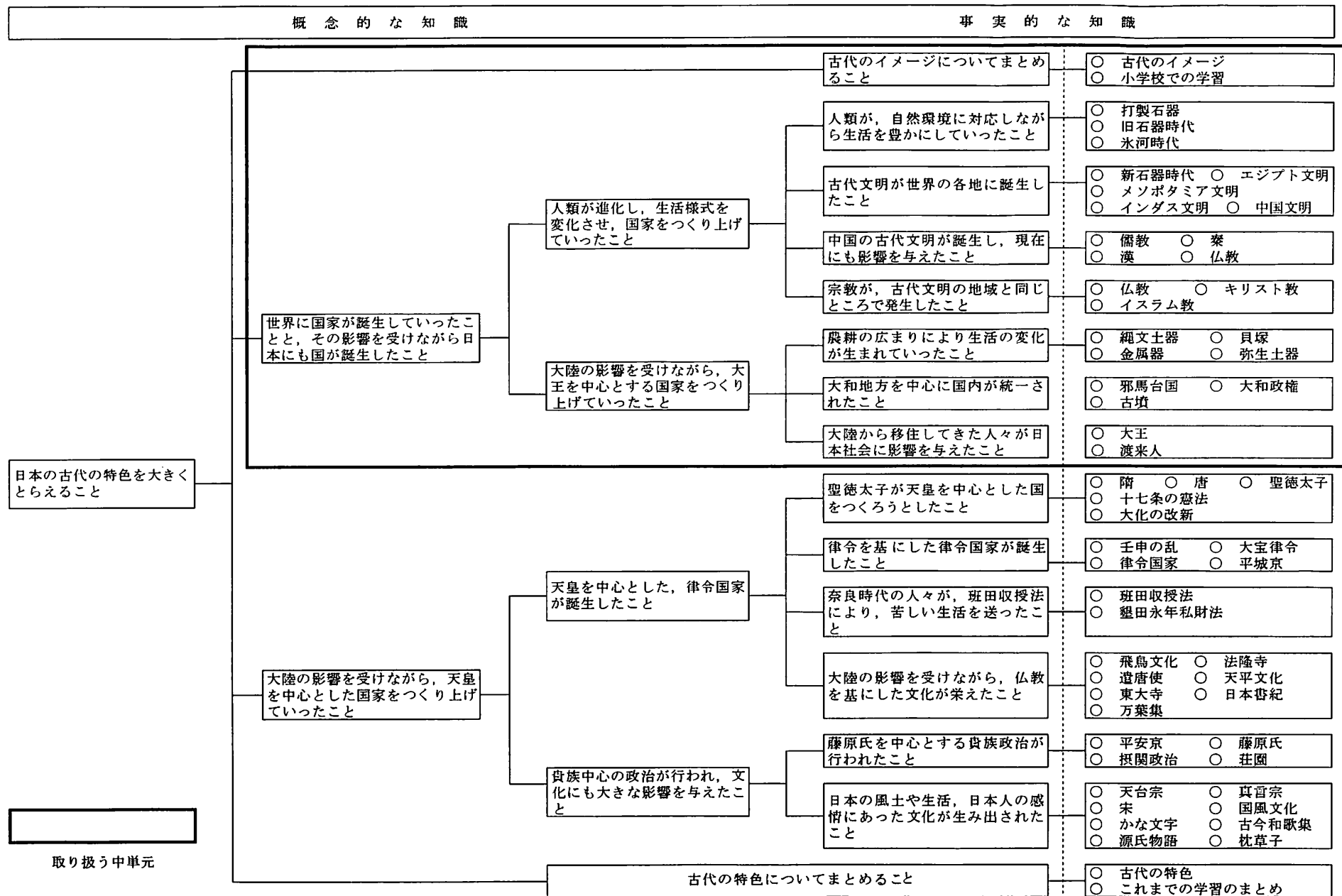
本単元では、古代（12世紀頃まで）の歴史の中でも、世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷による統一と東アジアとのかかわりまでの部分（6世紀まで）を学習内容とした。この単元を通して、世界の各地で文明が築かれ、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が築き上げていったことについて学習する。

世界の各地で人々が、農耕や牧畜を基盤に文明や、国を誕生させていくが、そこには、都市国家の成立、金属器の使用、文字の発生などという共通点が見られた。また、仏教、キリスト教、イスラム教などのおこった地域が、それぞれインド、西アジアなどの古代文明の地域と重なりも見られた。日本は国家を形成していく過程で、東アジアの影響を強く受けていく。それは、縄文・弥生期における稲作の伝来、弥生・古墳期における金印、鉄製農具、様々な技術や漢字といった大陸との人的、物的交流であった。

生徒は、小学校の学習で、主な歴史的事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用しながら学んでいる。この古代の時期については、狩猟・採集や農耕の生活、古墳について調べ、卑弥呼の動きを通して、国づくりの様子や大和朝廷による国土の統一の様子について学習している。アンケート結果によると、生徒は、卑弥呼について、「邪馬台国の女王である」(34名)「占いができる」(18名)「中国から金印を授かった」(13名)などを挙げており、全員が何らか一つは、答えることができた。また、古墳についても「王（豪族）の墓である」(40名)と答えており、この時代の小学校で学習した主な歴史的事象について、理解しているようである。しかし、大陸や朝鮮半島から日本に伝わったものについては、答えられない生徒がいたり、「生け花」「お茶」などを挙げたりと曖昧なところが見られ、古代の日本について大陸の歴史を通してとらえることはできていない。

そこで、指導に当たっては、日本に国家が誕生していく過程を、人類の出現や、世界の各地で人々が農耕や牧畜を基盤に古代文明を築いたことや古代文明と宗教とのつながりに着目させながら、理解させていく。特に、日本ともしっかりのかかわりの深い中国文明を中心にしながら、日本の古代と大陸とのつながりを通して、大陸から伝わったものや影響について理解させていく。その際、小学校での学習内容を授業の中で活用させていく。さらに、単元を通して、適切な資料の提示の工夫に取り組み、年表をその他の資料と組み合わせ、複数の資料から必要な情報を選択し、読み取り、解釈したり、説明したりするような言語活動を設定していくことにした。そうすることで、6世紀までの日本の成り立ちについて、世界の歴史の流れを踏まえながら大観させ、自分の言葉で表現できるようにしていく。また、本単元の学習内容を構造化し、明確にすることで、知識・概念、技能を確実に身に付けさせ、様々な社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力や態度をはぐくんでいくことにした。

3 単元の学習内容の構造化



取り扱う中単元

4 単元目標

- (1) 人類の進化と国家の形成の過程について関心をもたせ、意欲的に追究させる。(関心・意欲・態度)
- (2) 仏教、キリスト教やイスラム教の分布図から古代文明とのつながりや、日本とのかかわりについて考察させる。
(思考・判断)
- (3) 中国を中心とする古代文明の特色をさまざまな資料から読み取り、日本とのつながりについて表現させる。
(技能・表現)
- (4) 日本で国家が形成された過程や大陸から移住してきた人々が日本の社会に与えた影響について理解させる。(知識・理解)

5 単元の指導計画と評価の重点 (全8時間)

————— 評価(授業中) ————— 評価(授業後)

主 な 評 価 場 面 と 学習内容 (事実的な知識)	時 間	評 価 規 準				主 な 言 語 活 動 の 具 体 的 場 面
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
古代のイメージ 古代のイメージを表現する場面 ☐ 古代のイメージ ☐ 小学校での学習	1	日本の古代史について関心を持ち、意欲的に追究しようとする。 【観察】		日本の古代のイメージについてまとめることができる。 【ノート】		小学校の学習を踏まえて、古代のイメージについて、ノートにまとめる場面
人類の出現と日本列島 人類の進化の過程と特徴について理解する場面 ☐ 打製石器 ☐ 旧石器時代 ☐ 氷河時代	1			資料から人類の脳の容量の変化を読み取り、進化の様子についてまとめることができる。 【ノート】	使用されていた石器などの道具から、人類の生活の変化について理解することができる。 【ノート】	人類の誕生と進化の図から、その特徴について読み取る場面
文明の発生 古代文明の特徴について考察する場面 ☐ 新石器時代 ☐ 中国文明 ☐ エジプト文明 ☐ メソポタミア文明 ☐ インダス文明	1		古代文明が誕生した背景や要因について考察することができる。 【ノート】		世界各地に発生した古代文明の共通点について説明することができる。 【ノート】	世界各地に発生した古代文明の地図や資料から、国の誕生について解釈する場面
国家の誕生 秦が国家をつくり上げていく過程をまとめる場面 ☐ 儒学 ☐ 秦 ☐ 漢 ☐ 仏教	本時	秦の国づくりの特色や遺跡等について意欲的に追究しようとする。 【観察】		秦の国づくりの特色を資料から読み取り、国家形成の過程についてまとめることができる。 【ノート】		秦に関する資料から、その国家形成の過程について読み取る場面
三大宗教 三大宗教と日本のかかわりについて考察する場面 ☐ 仏教 ☐ キリスト教 ☐ イスラム教	1		三大宗教の分布図から古代文明とのつながりや、日本とのかかわりについて考察することができる。 【ノート】		仏教、キリスト教やイスラム教のおこりについて理解することができる。 【ノート】	三大宗教に関する資料から、古代文明や日本とのつながりについて解釈する場面
縄文文化と弥生文化 縄文や弥生文化の遺物から、その特色を考察する場面 ☐ 縄文土器 ☐ 貝塚 ☐ 金属器 ☐ 弥生土器	1	縄文や弥生文化の特色について意欲的に調べようとする。 【観察】	縄文や弥生文化の資料を分析し、その違いについて考察することができる。 【ノート】			縄文や弥生文化の資料から、その特色や両文化の違いについて読み取る場面
国々の誕生と古墳文化 日本の国家が形成されていく過程について理解する場面 ☐ 邪馬台国 ☐ 大和政権 ☐ 古墳	1			国家形成の過程について、遺物・遺跡などの具体的な資料からまとめることができる。 【ノート】	日本の国家が形成された過程について説明することができる。 【ノート】	中国の歴史書や遺物、遺跡から、日本の国家形成の過程について読み取る場面
大王の時代 大陸から日本に伝わった技術や文化について理解する場面 ☐ 大王 ☐ 渡来人	1	日本と中国・朝鮮との交流について意欲的に調べようとする。 【観察】			大陸から移住してきた人々が日本の社会に与えた影響について説明することができる。 【ノート】	日本と中国・朝鮮との交流を様々な資料を通して解釈する場面
全8時間における各評価観点の配当時数		④	3	4	1+④	○数字は、授業後に行う評価の回数を表す

6 本時の実際

(1) 主 題 「国家の誕生」

(2) 本時の目標

ア 秦の国づくりの特色や遺跡等について関心をもたせ、意欲的に追究させる。

(関心・意欲・態度)

イ 秦の国づくりの特色を資料から読み取らせ、国家形成の過程についてまとめさせる。

(技能・表現)

(3) 主題の考察

中国文明がおこり、紀元前16世紀頃には殷が誕生し、その後、周が誕生した。その周は紀元前9世紀頃から諸侯の反乱や周辺民族の侵入によっておとろえた。以後は、有力な諸侯が5世紀余りにわたって統一のための激しい争いを繰り広げる春秋・戦国時代となった。その春秋・戦国時代に終止符を打ち、紀元前221年に統一国家を樹立したのが、秦の政であった。秦の政は、皇帝の称号を使用して始皇帝と名乗り、郡県制を全国に実施し、官制をととのえ、文字や貨幣を統一するなど、中央集権国家体制を確立するための諸政策を行っていった。対外的には、北の匈奴を討ち、長城を修築してその侵入にそなえ、南はベトナム北辺までを支配下に入れた。しかし、外征や土木工事は民衆を苦しめることになり、始皇帝の死後まもなく、農民の反乱などがおこって、秦は滅んだ。秦に代わって統一を実現したのは漢であった。漢は、秦が行った政策を参考にしながら、約400年もの長期にわたる中央集権国家を確立することとなった。

生徒は、小学6年生で古代に関して、狩猟・採集や農耕の生活、古墳について調べ、大和朝廷による統一の様子について学習している。また、古代の学習をすすめる中で、神話・伝承を調べ、国の形成に関する考え方などに関心をもたせることもねらいとしている。世界の古代の歴史については小学校では学習していないが、アンケート結果によると、ピラミッドを40名（100%）が知っており、また、ピラミッドについては「王の墓といわれている」27名（68%）「エジプトにある」23名（58%）などと答えており、全員がピラミッドについては何らかの知識をもっているようである。しかし、古代の中国については、当時存在した殷や周、秦、漢という国について知っている生徒はおらず、始皇帝という人物も知らない状況であった。この頃、大陸や朝鮮半島から日本に伝わったものについて、知っているとした生徒は、

38名（95%）おり、当時日本が中国から影響を受けていたことは、理解していることがわかった。

指導に当たっては、秦の始皇帝の国家づくりに着目させながら、中央集権国家の誕生の流れを生徒にとらえさせる。まず、世界遺産に登録されている8000体にも及ぶ兵馬俑坑を始皇帝が作らせた理由に着目させながら、中国に誕生した秦に関心をもたせ、学習課題を「秦は、どのような国だったのだろう」と設定する。追究の過程では、秦が大きな国家を動かすために行ったこと（根拠）を、生徒それぞれに予想させる。その際には、自分なりの理由（論拠）も考えさせ、自分の考えをもたせていく。その自分の予想と史実を比較、検討させることで、始皇帝の政策の意図を理解させたい。また、授業のまとめとして、地図や資料を活用させながら、自分なりに文章でまとめさせていくことで、生徒に国家誕生の過程についての知識・概念を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力を高めていきたいと考えた。

(4) 研究に関する指導の工夫

【教科論 6-(1)-イ 適切な資料の提示の工夫】

これまで配布された秦に関する資料を基に、統一国家が誕生し、国を支配していった過程について、自分なりにまとめさせることで、思考力や判断力、表現力を高めさせる。

【教科論 6-(1)-ウ 自己の考えに対する「根拠」と「論拠」の設定】

文明の誕生や広がりやの要因を踏まえながら、国家の誕生に必要な要素（根拠）について、その理由（論拠）も考えさせ、発表させることで表現力を高めさせる。

(5) 本時の展開 (4/8)

主な発問や指示	単 元	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	情報提示の方法と内容
<問題把握> ○ なぜこのような物を作ったのだろう。	5 分	1 資料を見て、発表する。 2 学習課題を設定する。	1 兵馬俑の作られた謎に着目させるとともに、これを作った国家の存在に気付かせる。 2 古代の中国に誕生した秦について関心をもたせながら学習課題を設定する。	〔パネル〕 実物大の兵馬俑
秦は、どのような国だったのだろう。				
<本質究明> ○ 殷や周が減んだ後、中国はどのような状況だったのだろう。	3 分	3 資料を見て、殷や周の滅亡後の状況を理解する。	3 殷や周の滅亡後、中国は有力な諸侯が争いを繰り返していた戦国時代であったことを理解させる。	〔TP1〕 戦国時代の地図
○ 秦は、大きな国家を動かしていくために、どのようなことを行ったのだろう。	10 分	4 秦が大きな国家を動かしていくために行ったことを予想し、発表する。	4 文明の誕生や広がりやの要因を踏まえながら、統一国家が誕生した理由や、その後の国家の運営に必要なことを考えさせ、発表させる。 【教科論 6-(1)-ウ】	〔TP2〕 秦時代の地図
○ 始皇帝は、どのように国を治めたのだろう。	18 分	5 始皇帝の政治について、理解する。	5 始皇帝が、他の国々を武力で圧倒し、中央集権国家として必要な文字や貨幣、度量衡の統一や郡県制などの事業を行っていたことを理解させる。	〔プリント〕 文字、度量衡、郡県制 〔レプリカ〕 戦国時代の青銅製の貨幣
↓				
【関心・意欲】 秦の国づくりの特色や遺跡等について関心をもち意欲的に追究することができる。				
↑				
○ なぜ、秦は15年間という短い期間で滅んだのだろう。	4 分	6 秦が減んだ理由について予想し、発表する。	6 始皇帝が行った土木事業などが、国民の生活を圧迫していき滅亡の要因の一つになったことに気付かせる。	〔TP3〕 万里の長城 〔DVD〕 兵馬俑
<洞 察> ○ 国家がつくられた流れを自分なりにまとめ文章で表現してみよう。	10 分	7 ノートに自分の考えをまとめて記入し、発表する。	7 これまで配布された秦に関する資料などを基に、国家が誕生し、発展していく過程について自分なりに文章でまとめさせる。 【教科論 6-(1)-イ】	
↓				
【技能・表現】 秦の国づくりの特色を資料から読み取り、国家形成の過程についてまとめることができる。				

□ は評価場面、

【技能・表現】 は授業中における評価観点、

〔関心・意欲〕 は授業後における評価観点

(6) 主な資料

資料 1 兵馬俑



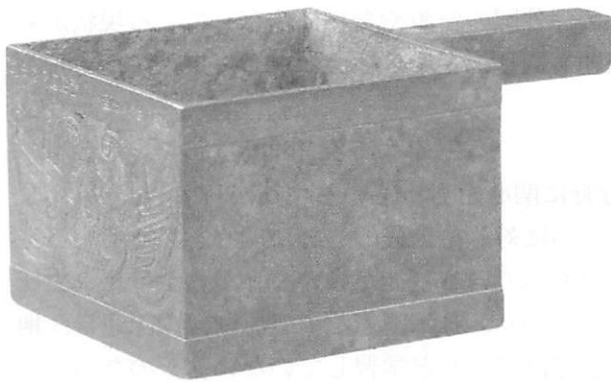
『中国古代文明 山川出版社』

資料 2 戦国時代の地図



『つながる歴史 浜島書店』より

資料 3 秦の時代の度量衡



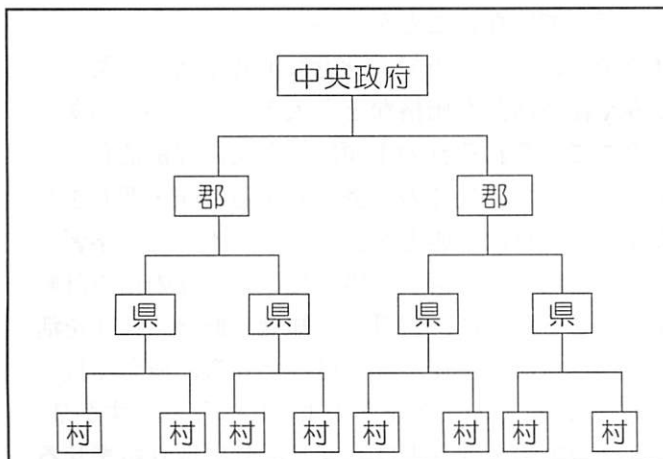
『中国文明史図説 4 創元社』

資料 4 秦の貨幣



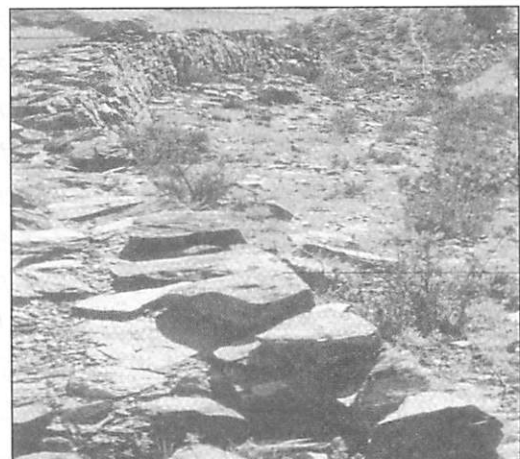
『中国文明史図説 3 創元社』

資料 5 郡県制



『世界史図録ヒストリカ 山川出版社』より

資料 6 秦の時代の万里の長城



『中国文明史図説 3 創元社』